



切磋琢磨で伸びる力

完走率98%以上の耐久レース

平成30年度卒業
第67回栃高祭実行委員長
早稲田大学

「栃高祭と仲間」

金子 文哉

卒業から2年経った今、栃高での3年間を振り返ると、私の学生生活は栃高祭なしには語れないものであったと感じる。中学生の時から栃高祭に毎年足を運んでいた私は、生徒もお客様も巻き込んで盛況を見せる栃高祭に強い憧れを覚えていた。そんな私が入学後に栃高祭実行委員に加わったのは、思い返せば必然であったように思える。

栃高祭に関わっていく中で、多くの人の支えがあり、そしてたくさん汗が流れていることを知った。一方でかけがえのない仲間を得た。彼らと創ってきた栃高祭は本当に素晴らしいものだったと思う。きっと先輩方も最高と言える仲間とともに栃高祭の歴史を紡いできたのだろう。実行委員長を引き継いでも、こういった仲間、先輩方、後輩達そして先生方のおかげで、迷走しながらも最後まで栃高祭を駆け抜けることが出来た。本当に感謝しかない。

栃高祭は毎年3000人を超えるお客様をお迎えしている県内でも大規模な文化祭だ。だがそれと同時に、卒業後全国に散った仲間たちがそこに集い、思い出話を花を咲かせる場でもある。卒業した後でも栃高生であったことを思い出させてくれる。

さあ次は君たちが新しい仲間と栃高祭を創る番だ。

令和2年度2年生
令和元年度
栃高耐久レース優勝
町田 錬太郎

栃高「耐久」レース

栃木高校の学校行事はどれも素晴らしいものばかりですが、特に印象的なものは栃高耐久レースです。この行事は、文字通り、長距離・長時間を走り抜くという行事です。その距離はなんと約27km。中学3年生の時の僕はこの数字を知って、とても驚きましたが、少し惹かれるものを感じました。多くの人にとって、この距離は未知のものでしょうか。そのような本番に備えて、体育の授業で一ヶ月を超える練習期間が設けられます。練習での総走行距離はノルマとして100kmを達成しなければなりません。もちろん、走ることが苦手な人もいますが、決して弱音を吐いたり、あきらめたりすることなく、仲間と励まし合いながら毎日の練習を乗り越えています。しかし、毎日の練習を乗り越えても、27kmを走るのは辛く、苦しいです。僕自身もレース中に何度も限界を感じ、足が止まりそうになりました。そんなときに背中を押してくれたのは仲間やこの行事に携わる保護者の方々、地域の方々、そして先生方の応援でした。その応援のおかげで無事にゴールすることができました。この行事の完走率は毎年、98%を超えます。この数字は、まぎれもなく、栃高生の強さの証です。この行事を通して培った忍耐力は多くの場面で生きていくはずですが、栃高耐久レースは栃高生を大きく、強くしてくれる、素晴らしい行事なのです。

相乗効果で伸びる。行事を通して知る先輩や仲間の能力、そして気付く自分の力。



5月：栃高スポーツ祭



6月：芸術鑑賞会



10月：栃高耐久レース(27km)



11月：修学旅行(2年)



7月：東京研修(1・2年希望者)



7月：東北研修(1・2年希望者)



11月：SSH校外研修(1年)



1月：スキー・スノーボード教室/蔵王(1・2年希望者)



8月：ボストン研修(2年希望者)



8月：栃高祭



2月：SSH研究成果発表会



3月：校内弁論大会